

第3回 『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

2、わかるように伝える

自閉症や発達障がいのある人が理解できるようにするために、視覚的な情報を使えばよいと言う事は前回述べました。

視覚的にもわかりやすく伝える方法の1つに構造化というものがあります。

構造化することによって「いつするのか?」「どこでするのか?」「何をするのか?」「いつまでするのか?」「終わったら何があるのか?」ということを知りやすく伝えるということです。

構造化には、「物理的な構造化」、「視覚的な明瞭化」といったものがあります。以下に紹介するのは、構造化のアイデアを取り入れたものの例です。

写真1は、買い物をするという活動の手順表です。買い物の手順を視覚的にわかりやすく示すことで、一人でお店に行って、買い物の手順を理解して買い物が出来るように考えたものです。

写真2は残りの時間をわかるように伝えるための道具で、タイムエイドと呼ばれているものです。残りの時間を光の数や、扇方の面積で知らせてくれるので、視覚的にもわかりやすく知らせることができるよう工夫されたものです。これならば、時計の針から時間を読み取る事ができなくても、残された時間に見通しを持つことができる人もいないのではないかと思います。

構造化のアイデアを取り入れた支援をするうえで知っておかなければならないことは、「構造化された環境がなくても活動できるようにする」ということを目指すものではないということです。例えば、先の買い物を例に挙げると、手順表を使わなくても買い物ができるようにと発想するのではなく、このような手順表を活用しながらでも、いろいろな場所で買い物ができるようにと発想することです。買い物の手順がわかれば一人で買い物をすることができるようになるからです。

また、手順表の有無にかかわらず、買い物ができるかどうかの方が「自立」するうえでは重要であるというように考えるということなのです。時計の場合でいうならば、一般的に使われている時計から時間を読み取る事ができなくても、タイムエイドを使うことができるならば、それもひとつの方法と考えると言うことが大切なのです。何もわかっていない状況で、周囲の人がその子を鍛え上げてできるようにするという発想ではなく、わかるように伝える為に構造化するという事と、場合によっては、それらを自分の力で使うことができるようにしていくという発想をもって、支援していくことがとても大切なことであると思うのです。



写真1、買い物の手順表



写真2、タイムエイド